

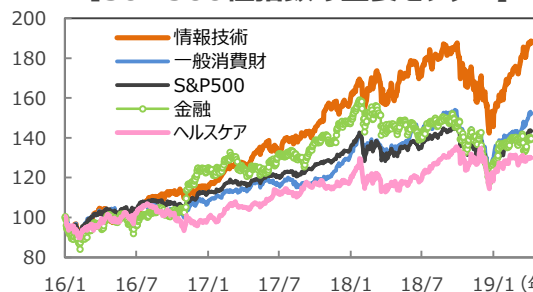


今日のトピック 業績モメンタムの上昇が続く米国株式市場 業績の回復期待が引き続き株価をけん引しよう

ポイント1 昨年後半の下落幅をほぼ埋める 「情報技術」は史上最高値更新

- 米国株式市場は堅調です。S&P500種指数の上昇率は昨年12月24日の安値から4月10日までで+22.8%となりました。S&P500種指数の中で時価総額比率が最も高い「情報技術」セクターは4月10日に最高値を更新し、同+32.5%を記録しました。ウエイトは低いものの、「公益」は3月26日に、「不動産」は4月5日にそれぞれ最高値を更新しました。（「情報技術」の時価総額比率は21.5%、「公益」は3.2%、「不動産」は3.1%。4月10日現在）。

（ポイント）【S&P500種指数の主要セクター】

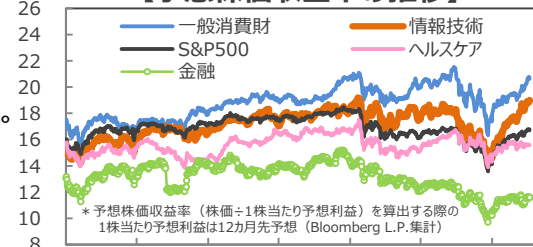


（注）データは2016年1月4日～2019年4月10日。2016年1月4日=100。
（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント2 S&P500種指数に割高感はない 「ヘルスケア」、「金融」に水準訂正の余地

- 予想株価収益率を見ると、S&P500種指数は16.8倍と2016年以降の平均値（16.8倍）と同じです（4月10日）。ここまでの好調さをけん引した「情報技術」は19.0倍と平均+1標準偏差の18.2倍を上回っています。また、時価総額比率上位の「ヘルスケア」は15.6倍（平均値15.6倍）、「金融」は11.6倍（平均値13.1倍）と過去の水準に比べて割高感はなく、水準訂正の余地があると考えられます。

【予想株価収益率の推移】

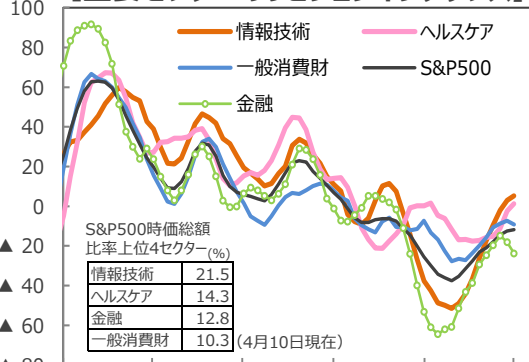


（注）データは2016年1月4日～2019年4月10日。
（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 業績の回復期待が引き続き株価をけん引しよう

- 米国株式市場は、業績の回復期待が株価をけん引すると思われます。今後、主要企業の1-3月期決算の発表が本格化します。業績予想の勢い（モメンタム）を見るリビジョンインデックスは、1月を底に上昇傾向にあります。特に「情報技術」は堅調で、株価上昇の裏付けとなっています。「ヘルスケア」も戻りに勢いがあります。「金融」は、長短金利が一時逆転したことが嫌気され、足元でモメンタムが悪化しています。しかし、金融政策の緩和方向への転換は住宅や建設投資などを刺激することで景気をサポートすると期待され、年後半に向け業績の改善が期待されます。また、中国の金融業界の対外開放が進み始めたことも、米金融業界にプラスに作用する可能性があり、注目されます。

（%）【主要セクターのリビジョンインデックス】



（注1）データは2018年1月4日～2019年4月4日。週次。
（注2）リビジョンインデックス：（上方修正銘柄数－下方修正銘柄数）÷（上方修正銘柄数＋下方修正銘柄数）で計算。4週移動平均。12か月先予想（当期純利益）。予想はI/B/E/S。

（出所）Datastreamのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

* 三井住友アセットマネジメントと大和住銀投信投資顧問は4月1日に合併し、三井住友DSアセットマネジメントになりました。

ここも チェック!

2019年4月10日 市川レポート「ここからの米国株」

2019年4月 4日 吉川レポート（2019年4月）継続する「綱引き」状態

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。